

日本民間放送連盟『ラジオ制度プロジェクト』 説明資料

災害報道と民放ラジオ…そして、これから

ラジオだからできた事…
ラジオでしかできない事…

1. 災害報道、民放ラジオの果たしてきた役割
2. 民放ラジオの地域防災に向けた日常的な活動
3. デジタル時代、ラジオと防災報道は…

日本民間放送連盟『ラジオ制度プロジェクト』

(ピックアップメンバー)

TBSラジオ 文化放送 ニッポン放送 TOKYO FM ⑤-WAVE 81.3FM MBS毎日放送

1. 災害報道、民放ラジオの果たしてきた役割

日本民間放送連盟『ラジオ制度プロジェクト』

(ピックアップメンバー)

TBSラジオ 文化放送 ニッポン放送 TOKYO FM ①-WAVE ②-BI・3FM MBS毎日放送

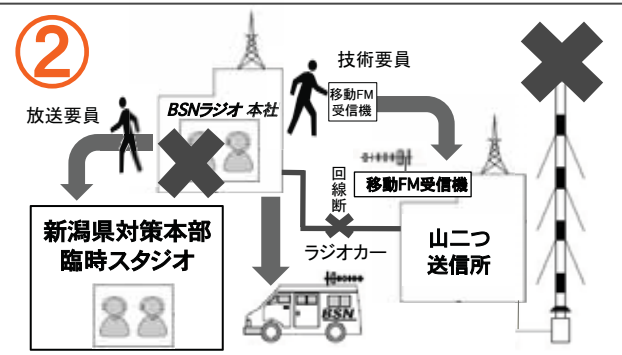
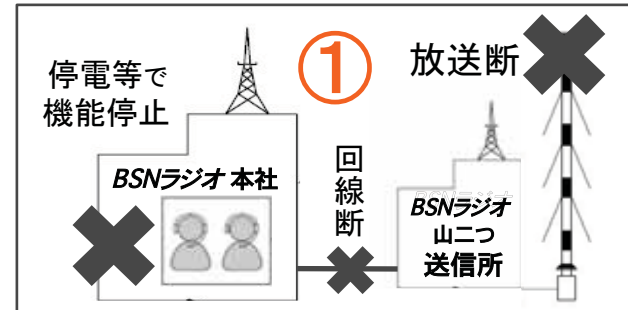
災害報道～『新潟地震』新潟放送のケース

【取材協力】新潟放送 高澤正樹 相談役

2010.3.31
ラジオと地域情報メディア
の今後に関する研究会



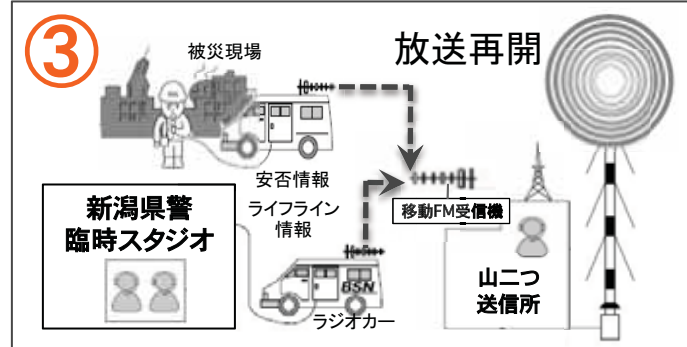
1964(昭和39)年 6月16日 13時02分 新潟県粟島附近を震源とする大地震が発生。地震直後新潟放送(BSNラジオ) 社内は停電となり、機能停止、さらに本社～山二つ送信所間の放送線が切断され、ラジオ放送も中断を余儀なくされた



この時、BSNラジオの技術スタッフは、新潟市 山二つにある送信所からの直接の放送を試みる為、移動FM受信機を携え、徒歩で、1時間30分かかかる送信所に向かい、同時に県庁の災害対策本部に臨時スタジオを設置するとともに、直接送信所に情報を送信する為のFMカーを配置、一秒でも早い放送再開に奔走した。



結果、BSNラジオは15時12分、地震発生後2時間3分後放送再開、この臨時スタジオから避難指示をはじめ、水道・ガス・電気・食料などのライフライン情報、そして安否情報など地域市民へ放送、さらに、送信所にもアナウンサーを配置、被災現場などを結び、確かな情報を送ると共に、冷静な行動を訴え続けた。



ラジオという地域の『安心・安全の為の“公器”』を守る 高い「使命感」と「責任感」

新潟地震時の『尋ね人』(安否情報)

報道の最前線にいたT氏は、地震当時新潟に修学旅行にきていた福島県の学校から旅行団搜索の依頼を受けた。その瞬間**特定人向けの放送を禁じていた放送法が頭をかすめたものの、終戦直後の「尋ね人の時間」を想起し、オンエアすることを決断。**

**「〇〇町の□□さん、ご家族が△△小学校の
非難所におられます。ご安心下さい」**

この放送を聴いた「行方不明の肉親を捜す」被災者が、県庁の対策本部前に続々と列を作り、BSNラジオは災害情報と合わせ「安否情報」を放送し続けた。地震発生からの特別放送は翌々日の未明まで**37時間、尋ね人(安否情報)の数は5,000人にも及び、尚、その後も断続的に行われた。**



県庁の臨時スタジオから真っ暗な中、ローソクと懐中電灯を頼りに被災情報や安否情報が放送する様子

この新潟放送の「尋ね人」放送は、その後、「安否情報」として民放ラジオの災害放送の大きな要素となっている

**「所詮、テレビは全国向けのもの。被災地以外へのもの。キー局からの要求は全国の人が
関心をよせるものに集中する。ローカル局は、それで手一杯になる。
本当に被災地に対して放送するもの、伝えるものというのはラジオしかない。
携帯やいろいろなものが出てきているから、通信が出てきているから……
一般の人は安心するかというと、そうはならない」**

(新潟放送 高澤正樹 相談役)

災害報道～『阪神大震災』ラジオ関西のケース

【取材協力】ラジオ関西 三枝博行 専務取締役

2010.3.31
ラジオと地域情報メディア
の今後に関する研究会



1995年(平成7年)1月17日 午前5時46分震度7は、全てをねじ曲げ、なぎ倒した



© ラジオ関西



© ラジオ関西



© ラジオ関西

放送中断は13分05秒

4つのスタジオが壊滅。一番奥のオンエアスタジオだけが、かろうじて全壊を免れた

午前6時の時報とともに放送再開、1月20日午前3時までの
69時間、CM無しの震災報道を続けた

AM神戸(ラジオ関西) 震災報道の記録 『被災放送局が伝えたもの』より

18日早朝から安否情報とともに避難所での暮らしに必要な水や食料などを
求める電話とそれに答える情報がホットラインに寄せられた。

この間に放送した安否情報、生活情報は約3万件

(和歌山放送、KBS京都、西日本放送の3社からの要請で、1月20日から毎日3分枠を各局に提供)

放送再開直後から、とにかく目前の被災者のために救援をという思いは
自然に社員全員に浸透、大災害でのラジオの役割、被災者への思いは暗黙のうちに一致をみた。

地元局意識と自らも被災者という立場から被災者の目線での報道ができ

災害時での地域ラジオの使命を果たしたと言える。

また、全員が気負わず、

終始冷静に放送活動を行い、不安を与えることなく必要なことをキチンと伝える

～ラジオの災害報道は「危機報道」よりも「安心報道」～

という基本を守り抜けた

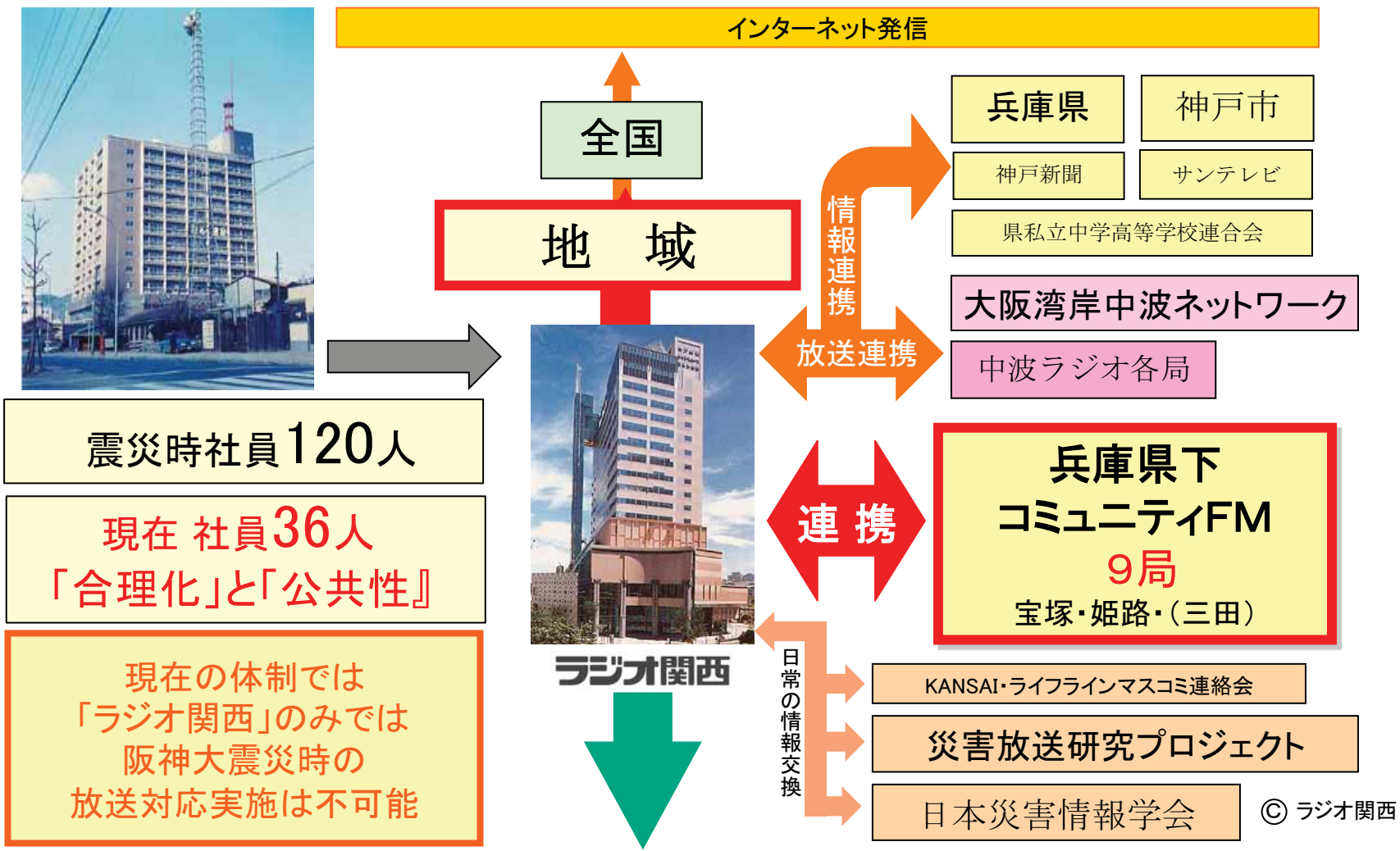
今回のような 想像を越えた災害の場合、被害状況を理解してもらうには音声メディアには限界があり、
その役は映像メディアのテレビ等に譲ざるを得ない。しかし、

被災者の安否を求めたり被災者の暮らしに役立つ身近な生活情報発信にはラジオが最適

であり、停電が長引いた状況とあいまって、

災害時のメディアとして、ラジオは欠くことができない存在であることを実証した。

現在のラジオ関西 地域防災ネットワーク



様々なネットワーク、特にコミュニティFM9局との
連携を日常から重視している

災害報道～『2010年2月28日 大津波警報』東北放送のケース

【取材協力】東北放送(TBCラジオ) 藤沢智子 アナウンス部長

2010.3.31
ラジオと地域情報メディア
の今後に関する研究会

2010/3/2発行

20100228大津波警報発令

区分	津波情報放送時間	内容	備考
通報割込	8:43:45～8:44:29	※太平洋沿岸に津波の恐れ (さかえ里長のホットな関係 内 8:40～9:00)	AN部(情報センター生)
	2010年2月28日(日) 午前9時33分	太平洋沿岸に大津波・津波警報発令 ※宮城県沿岸津波到達予定時刻第一波 13:30頃 ※仙台港の満潮時刻 15:00すぎ	
特別番組	9:34～10:17:24	特番「太平洋沿岸に大津波警報発令(1)」 ※緊急警報EWS発射9:35:00～9:35:15 <途中中止> 世相ホットライン ハイ! 武村健一です 9:30～10:00⇒9:30～9:34:10 <休止> 河北新報ニュース 10:00～10:05 <途中復帰> トヨタレシンの高樹千佳子のハイブリッドな週末 10:05～10:20⇒10:17:22～10:20	AN部(情報センター生)
通報割込	11:00～11:05	(河北新報ニュース内)	AN部(情報センター生)
通報割込	11:21～11:23:55	(Sunday Soundscape内)	AN部(情報センター生)
通報割込	11:39:20～11:42:50	(Sunday Soundscape内)	AN部(情報センター生)
通報割込	12:00～12:05	(河北新報ニュース内)	AN部(情報センター生)
通報割込	12:05～12:10	(天気予報内)	AN部(情報センター生)
特別番組	12:15～17:00	特番「太平洋沿岸に大津波警報発令(2)」 (NOWも現役! 大人のラジオ内) <休止> うたまつり! JRAサンデー競馬中継(含むCM) 12:15～13:00 15:15～16:00	R制作(スタジオ生)
通報割込	17:54:48～17:57:20	(宮川賀のまつぼっくり内) 17:30～18:00)	AN部(情報センター生)
特別番組	18:30～19:00	特番「太平洋沿岸に大津波警報発令(3)」 <移動> アンニョン韓国スーパー 2/28(日)18:30～19:00⇒3/1(日)18:30～19:00	R制作(スタジオ生)
通報割込	19:04:21～19:04:57	※大津波警報から津波警報へ変更 (ラジオふるさと便 内 19:00～20:00)	AN部(情報センター生)
通報割込	21:53:10～21:54:31	※県内道路通行止め解除 (渡部勝彦の音楽レストラン 内 21:30～22:00)	AN部(情報センター生)
通報割込	24:43:40～24:44:12	※石巻の避難指示が避難勧告に切り替え (高橋直純Troubleaker 内 24:30～25:00)	AN部(情報センター生)
通報割込	25:14:38～25:15:03	※宮城沿岸部 津波警報が津波注意報に切替。 (小森まなみのPop'n'n'シヤREVE内 25:00～25:30)	AN部(情報センター生)
通報割込	25:33:00～25:34:10	※EWS終了信号。 (試験電波内 25:30～4:00)	AN部(情報センター生)
通報割込	25:54:30～25:55:15	※県内の避難勧告は全て解除。 引き続き津波注意報発令中。 (試験電波内 25:30～4:00)	AN部(情報センター生)
	3月1日(月) 午前10時15分	宮城県沿岸の津波注意報 解除	
通報割込	10:16:58～10:17:41	※津波注意報 解除。 (COLORS内 9:00～11:30)	AN部(情報センター生)

2010年2月28日(日) 太平洋沿岸に大津波・津波警報発令
午前9時33分
※宮城県沿岸津波到達予定時刻第一波 13:30分頃
※仙台港の満潮時刻 15:00過ぎ

■特別番組「太平洋沿岸に大津波警報発令」(1)
9:34～10:17:24 ●緊急警報EWS発射 9:35:00～9:35:15
◎気象庁記者会見 ◎本記ニュース他 【AN部(情報センター生)】

■特別番組「太平洋沿岸に大津波警報発令」(2)
12:15～17:00 ◎気象庁記者会見 ◎各種ニュース/情報
今村文彦東北大災害制御研究センター教授(津波工学)
県庁/各地役場災害対策本部 TBC登録防災レポーター 気仙沼市魚市場
TBC登録 防災タクシー レポーター TBCリスナー情報 志津川漁港
ラジオカーレポート(気仙沼市魚市場/志津川漁港)
【ラジオ制作(情報センター生)】

■特別番組「太平洋沿岸に大津波警報発令」(3)
18:30～19:00 ◎各種情報/ニュース 【AN部(情報センター生)】

日曜午前という時間帯ながら、在局ラジオスタッフでの
緊急報道体制がとれた。日常の心構え

日常からの防災放送体制
(防災タクシーレポーター、登録防災レポーター等)が機能

TBCでは災害放送第一報は「ラジオ」であるが、...

ラテ兼営でありながら、両者の連携の難しさ

津波警報に対して市民の行動は?(災害情報への慣れ?)

緊急警報EWSの有効性は?

2. 民放ラジオの地域防災に向けた日常的な活動

日本民間放送連盟『ラジオ制度プロジェクト』

(ピックアップメンバー)

TBSラジオ 文化放送 ニッポン放送 TOKYO FM ①-WAVE 81.3FM MBS毎日放送

民放ラジオの地域防災に向けた日常的な活動-1

「タクシー防災レポーター」制度 TBSラジオ ニッポン放送 MBS毎日放送 TBC東北放送 他

大規模な災害が発生した場合、現場の「第一目撃者」となる可能性が高いタクシードライバーからの携帯電話(災害時優先電話)による生の情報を放送に活用、さらに車内に救急セット・消火器・ロープなどを搭載し、災害の初期消火や援助に協力する制度。各ラジオ局は定期的に現場レポート方法等の講座、セミナーを実施。



安否情報ネットワーク ニッポン放送

ビル=会社単位、小中高校単位で【安否情報】を日常からネットワーク化。災害時には情報を集め随時放送。(ビル安否情報~295ビル=50万人、学校安否情報~680校=50万人)



ラジオリフレッシュキャンペーン TBSラジオ

ラジオの価値の再認識を目的に、各自治体防災訓練・イベントに参加し、「無料でラジオの修理・電池交換」(リフレッシュ)を定期的を実施。関連活動として、「阪神大震災」「中越地震」時に在京ラジオ局が数千台のラジオを各被災地の避難所に送っている。



防災一口メモ TBSラジオ 文化放送 ニッポン放送 MBS毎日放送 TOKYO FM JT-WAVE 81.3FM 他

「災害への備え」「災害時の心得」をスポット、ミニコーナー、レギュラー番組等で放送、聴取者への日常的な啓蒙を図る。

パパラビジョンによる被災地への情報伝達 TOKYO FM JFN

“電光掲示板”「パパラビジョン」及び「パパラジコム」受信機端末を避難所に設置、被災者に電光掲示で地域のライフライン情報を伝える



災害情報協力店舗ネットワーク 文化放送

地域の店舗と契約寄せられた地域情報を放送に活かして行く

全国民放ラジオ101社統一キャンペーン『地震への備え~あなたを守る知識とラジオ~』

これまで7回実施

民放ラジオの地域防災に向けた日常的な活動-2

2010.3.31
ラジオと地域情報メディア
の今後に関する研究会

NHK・在京民放ラジオ・災害情報ネットワーク

NHKを含む在京ラジオとライフライン5社 (NTT東日本、NTTドコモ、東京電力、東京ガス、東京都水道局) は日常的にライフラインネットワークを構築し、災害時最も被災者の情報ニーズが高いライフライン情報 (ライフラインの被災、復旧など) を放送7社の全電波へ直接ライフライン各社より放送する。

「幹事社」は首都圏1都県で震度5強以上の地震発生、又は東海地震の警戒宣言発表を持って、速やかラジオ各局及びライフライン各社間の回線を接続する。

「ライフラインネットワーク」が開始されたら、情報は1時間おき、毎時15分。幹事社が進行役を努める。(毎月第一月曜15時15分から定例テスト)



7局同時OA

緊急地震速報～民放ラジオはどう伝えるか

TBSラジオ ニッポン放送 TOKYO FM 他、民放ラジオ各社
文化放送 ラジオ日本 J-WAVE 81.3FM

【運用開始時期】
NHK + テレビ各局
『2007年10月』

【震度基準】
NHK + テレビ各局
『震度5弱』

【速報放送地域】
NHK
『全国』

民放ラジオ独自の判断・基準

民放ラジオ各局
『2008年7月』

民放ラジオ各局
『震度5強』

民放ラジオ各局
放送地域に地震が予測される場合に
『放送地域のみ』

「災害時のラジオの役割の独自性・重要性」から諸問題を検討すると共に事前にリスナーの認知度のUPを図るため、共同でPR活動を展開

過去の地震災害の実態や二次被害発生の懸念「二次被害」とは、例えば「高速道路上のドライバーによる過剰反応によつての事故発生」等

「緊急地震速報」は地域性の高い情報であることから、地震がそれぞれの地域に発生することが予測される時のみ、その地域に向けて放送する

地域防災に向けての様々な体制整備に加え・・・

地域に根ざした放送

市民生活に根ざした放送

信頼される「ラジオパーソナリティ」

日常での民放ラジオの信頼性を確保に努力

TBSラジオ
95.4kHz
TEL (03)3583-6000 (内線)
URL http://www.tbs.co.jp/radio

「TBSラジオでは、毎月1日は「防災ラジオの日」と題して、防災ワンポイントメモを随時、放送しています。万が一の時、ラジオは防災に役立ちます。日頃から「防災意識」を高めましょう。

防災キャスター 内山雄二

文化放送
TEL (03)5403-1111 (内線) URL http://www.joar.co.jp/

宝島が防災キャスター
文化放送のアナウンサーは、全員が「防災キャスター」です。いざ、とわらわらとの放送に備えているのは、もちろん。普段から持ち回りで、毎日(月～金)お昼12時14分からは、「防災10分メモ」を放送して、いざというときの心構え、防災の知恵をお伝えしています。

「防災10分メモ」は、お昼12時14分～12時24分まで放送。防災キャスターは、お昼12時14分～12時24分まで放送。

ニッポン放送
TEL (03)3287-1111 (内線) URL http://www.1242.com

首都圏最大の防災ネットワークで安心放送
ニッポン放送では、災害発生時に被災状況などを中心に放送。そして、その後の状況に応じた、必要な一歩知れない防災情報をお伝えします。

ニッポン放送の災害防災システム
「最新の災害情報」、「学校避難情報」、「災害発生時の防災情報」。

また、毎日の放送では、ニッポン放送防災ネットワークによる「防災10分メモ」をお届けしています。

いざという時、ラジオは頼りもあななのお役に立ちます。お出かけのときも必ず、携帯ラジオを！



TOKYO FM
Just Me, Just 50MHz
TEL (03)3221-0080 (内線) URL http://www.tfm.co.jp/

災害が起こったら何をしなければいけないか、起こってからでは手遅れです。普段から防災に関する知識を身につけておきたいもの。TOKYO FMでは毎週土曜日19時55分から「防災5Minutes Check」という5分番組を放送しています。また、非常時にはお手持ちの携帯電話にFMラジオが搭載されています。是非そちらで最新情報を聴いてください。

「そのとき」すぐに「必ず受ける最新の防災情報・知識をお届け。聴けば必ず「防災力」が高まります！ TOKYO FM 緊急放送センター 古賀優子

J-WAVE 81.3FM
TEL (03)6832-1111 (内線) URL http://www.j-wave.co.jp

J-WAVE では災害が起きた時、迅速、正確な報道に努めることはもちろんですが、生活に必要ないるな情報の発信や音楽による心のケアなど、役に立ち、元気の出る放送を心がけます。

防災 NEWS DESK
災害情報 高橋 新
中継 橋本 幸樹 杉原 隆
防災 山田 幸 杉田 隆

MBSラジオ 放送時間 毎週月曜日 夜7:30～8:00
ネットワーク1.17
TEL 042-55-1170 mbs117@mbn.or.jp

ネットワーク1.17とは
「防災に向けた、被災状況の速報、被災者の声と知る番組」。2009年2月27日、地震・津波の被害が拡大した。19時55分45秒にスタート。被災者に寄り添い、被災者の現状や情報を定着させました。そして、被災者や被災地を支援する「被災地支援による多岐目的番組」である。この「ネットワーク1.17」は、被災地を支援するべく、被災地からの発信を届けています。被災地の状況を伝えます。被災地からの発信を届けています。今では「防災情報」の発信者です。

2009年防災マンスリー賞受賞
2009年防災マンスリー賞受賞
魚住由紀 河本克也

日本災害情報学会の「廣井賞」受賞!

3 . デジタル時代、ラジオと防災報道は…

日本民間放送連盟『ラジオ制度プロジェクト』

(ピックアップメンバー)

TBSラジオ 文化放送 ニッポン放送 TOKYO FM ①-WAVE 81.3FM MBS毎日放送



2011年7月以降テレビの完全デジタル化

放送/通信分野に於ける
アナログラジオ(AM/FM)の孤立化

アナログラジオ端末の
さらなる衰退?

「安心・安全」システム
からの疎外化

これまで通り、ラジオが課せられた防災時の使命を
果たすことができるのか?

さらに…

アナログメディアでの
経営基盤の弱体化

デジタル時代の
ラジオの大きな課題?

ラジオメディアによる
安心・安全な社会の実現

デジタル化による放送(ラジオ)事業での新規ビジネスの創出

デジタル時代に於いてもラジオは地域の『安心・安全の為の“公器”』

参考資料

日本民間放送連盟『ラジオ制度プロジェクト』

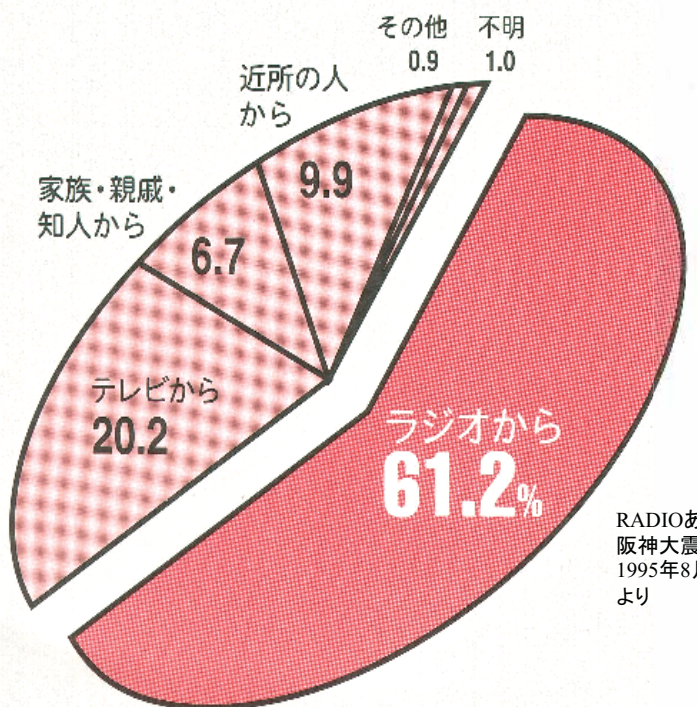
(ピックアップメンバー)

TBSラジオ 文化放送 ニッポン放送 TOKYO FM  81.3FM MBS毎日放送

地震の時に初めて接触したメディアは？

1995(平成7)年 阪神大震災

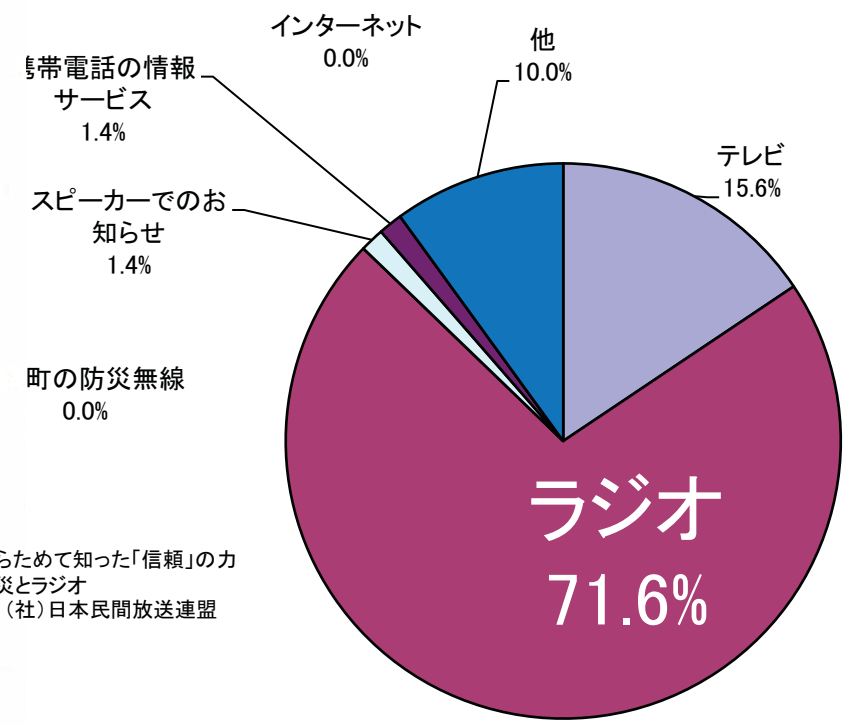
グラフ1 ●地震後初めて接した情報のルート
【毎日放送調査】



RADIOあらためて知った「信頼」の力
阪神大震災とラジオ
1995年8月(社)日本民間放送連盟
より

2004(平成16)年 中越地震

10月23日の地震発生後、
あなたが最初に接触したメディアはなんですか？



在京民放ラジオ8社合同「災害とメディアに関する調査」速報！
2005年1月 在京民放ラジオ広報担当連絡会 より

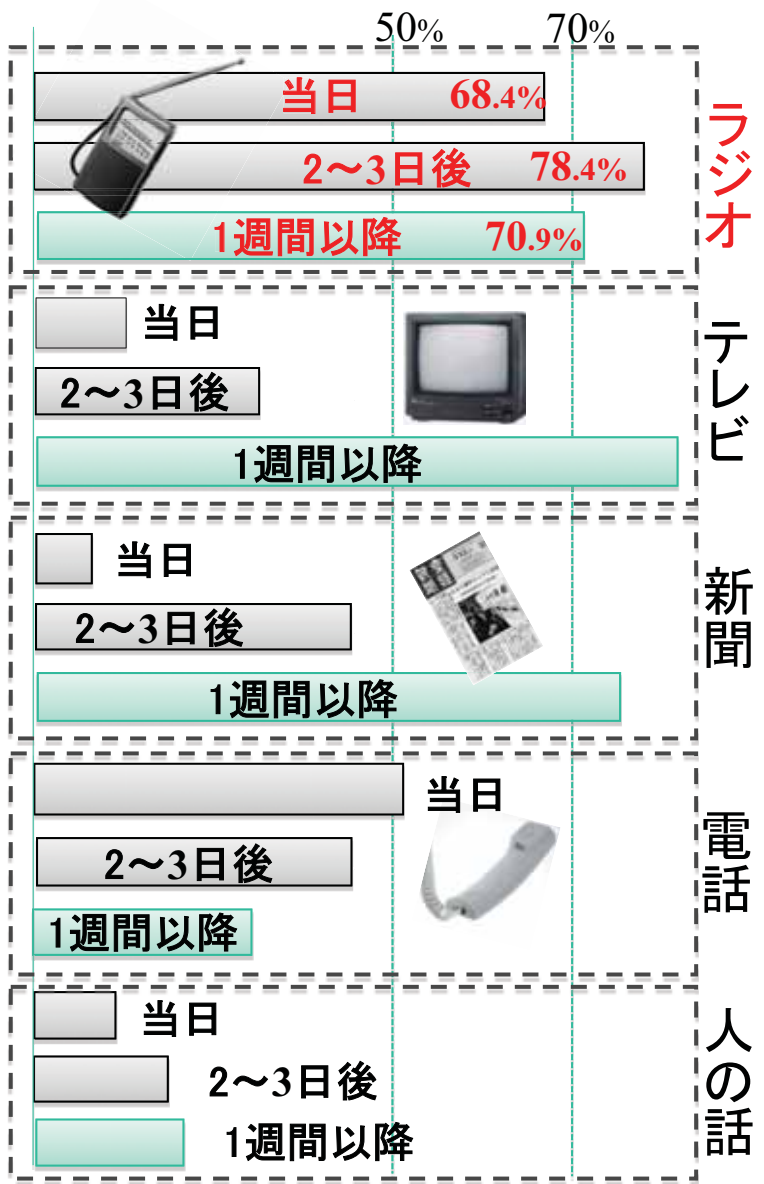
どのような形態のラジオでしたか？（中越地震時/複数回答可）

自分、又は家族の車の
カーラジオ 55.3%

自分、又は家族持っていた
ラジカセ、ポケットラジオなど
持ち運べるラジオ 46.3%

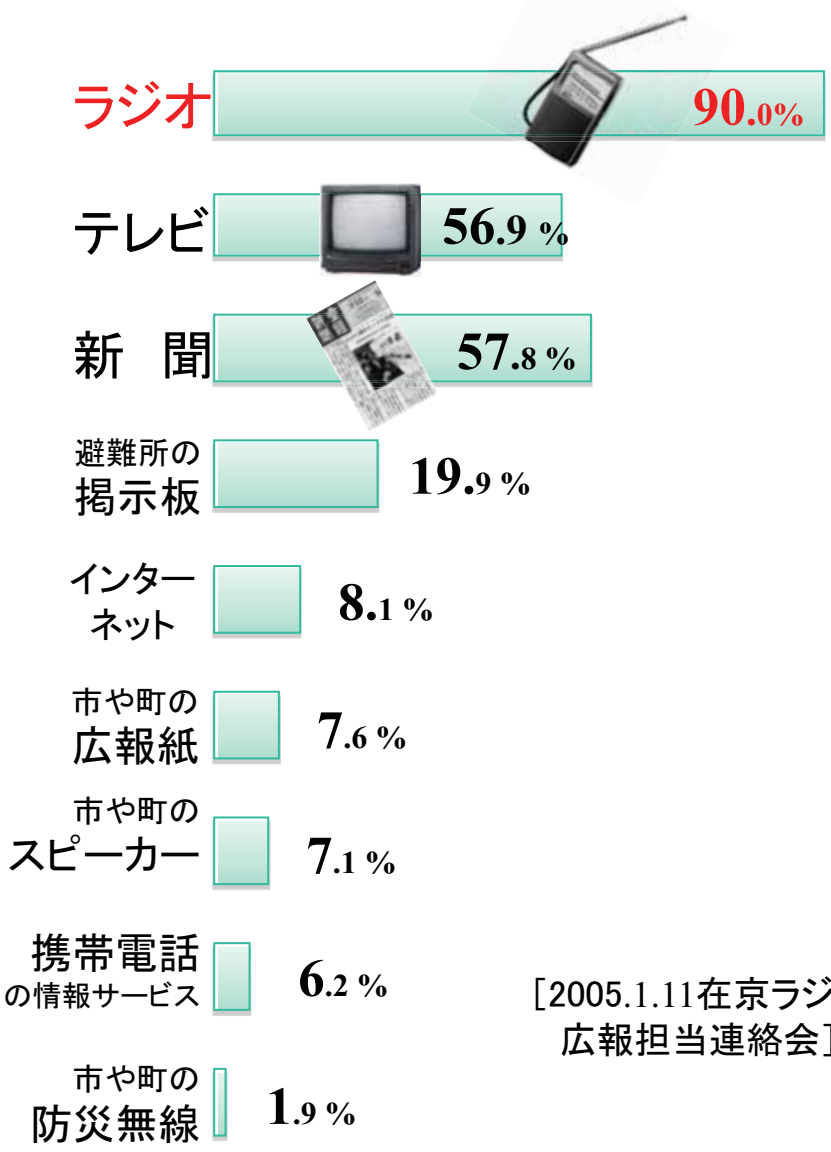
周りの人が持っていた
ラジオ 24.2%

阪神大震災後の情報源推移



[文化放送調査]

中越地震後の情報源推移(1週間後)



[2005.1.11在京ラジオ
広報担当連絡会]

ラジオこそ、地域密着のメディア

AM局のローカル制作比率 52.2%
地方テレビ局のローカル制作比率 12.8%

ラテ兼営局のローカル制作比率の比較(例)

